

■芦田均 外交官・政治家。リベラリストとして第2次大戦を洞察し、〈敗戦〉直後に首相、世界政治史の名著を遺した。

あしだひとし

国民之友始・1887＝ 京都府福知山市で、代々大庄屋芦田鹿之助の次男に生まれる。母は織物輸入商の娘寿美。

帝国憲法発布1889＝ 2歳：

帝国議会始・1890＝ 3歳：父が最初の衆議院の議員に当選。

日清戦争始・1894＝ 7歳：

白馬会・・・1896＝ 9歳：

日露戦争始・1904＝17歳：旧制兵庫県立柏原中学校を卒業し、旧制第一高等学校仏法科に入学。

日露戦争終・1905＝18歳：

韓国反日暴動1907＝20歳：首席で卒業し、東京帝国大学法学部仏法科に進学。

韓国併合・・・1910＝23歳：〔第二次新思潮〕に、アナトール・フランスの短編小説を翻訳寄稿、発禁停止処分受ける。

大逆事件判決1911＝24歳：外交官及領事官試験に合格し、

明治天皇没・1912＝25歳：東大法科卒業後、外務省に入省、

第一次大戦始1914＝27歳：駐露大使館勤務で、サンクトペテルブルクに赴任、

ロシア革命・1917＝30歳：ロシア革命を目撃、

本格政党内閣1918＝31歳：三等書記官となって、帰国。駐仏大使館勤務となって、パリに赴任。

ベルギー条約・1919＝32歳：パリ講和会議全権随員を務めて、

大暴落・・・1920＝33歳：二等書記官に昇進、

原敬首相暗殺1921＝34歳：

関東大震災・1923＝36歳：外務事務官から、書記官となり、情報部二課長、

護憲三派圧勝1924＝37歳：情報部三課長を兼務、

治安維持法・1925＝38歳：一等書記官。駐トルコ大使館勤務となり、コンスタンチノーブルに赴任、

共産党事件・1928＝41歳：翌年にかけて、駐トルコ代理大使。その間、研鑽したものを「君府海峡通航制度史論」としてまとめ、

世界恐慌・・・1929＝42歳：法学博士。参事官となって

海軍軍縮条約1930＝43歳：帰国。駐ベルギー大使館勤務となるが、

満州事変・・・1931＝44歳：満州事変を機に、

五一五事件・1932＝45歳：退官し、立憲政友会から衆議院議員に当選(以後、連続当選11回)。

国際連盟脱退1933＝46歳：ジャパン・タイムズ社長となる。

帝人疑獄事件1934＝47歳：第2次大戦を予言するような「最近世界外交史」を刊行、

日中戦争始・1937＝50歳：翌年にかけて、欧米を視察。

第二次大戦始1939＝52歳：政友会の分裂に際しては、久原房之助・鳩山一郎らとともに、正統派に属する。

大政翼賛会・1940＝53歳：社長を退任。

日米開戦・・・1941＝54歳：同交会の結成に参加。

敗戦・・・1945＝58歳：*敗戦後、日本国憲法第9条に自衛権を認めさせる含意の「芦田修正」がなされ、リベラリストとしての評価を受けて、占領体制下の政界で活躍。鳩山一郎らと日本自由党結成に参加、幣原喜重郎内閣の厚相、

新憲法公布・1946＝59歳：自由党から出馬して当選し、衆議院憲法改正委員会委員長に任命される。

新憲法施行・1947＝60歳：自由党から一派率いて脱党し、民主党結成に参加、総裁となり、社会党との連立政権を組閣。片山哲内閣の副総理、外相を務め、

極東裁判判決・1948＝61歳：*芦田内閣を組閣したが、昭電疑獄で7ヵ月で倒壊。自らも逮捕され、保釈、

朝鮮戦争始・1950＝63歳：生計の足しになればと、ロシア赴任時を回顧する「革命前後のロシア」を出版、

独立回復・・・1951＝64歳：

メーデー事件・1952＝65歳：地裁で無罪判決、

以後、非主流の保守系政党に属し、

55年体制始・1955＝68歳：自由民主党結成に参加。

なべ底不況・1957＝70歳：衆議院議員勤続25年の表彰。

インスブールン・1958＝71歳：ようやく、無罪確定したが、名著とされた「革命前後のロシア」に加筆して再出版し、

美智子妃・・・1959＝72歳：*病床で口述筆記により、第2次大戦の遠因と近因を解明する「第二次世界大戦外交史」を完成させて、没した。翌年、遺著「第二次世界大戦前史」も刊行される。